

JVCケンウッド 会社案内



企業ビジョン

感動と安心を世界の人々へ

Creating excitement and peace of mind
for the people of the world

経営方針

- ・ものづくりを通じた新たな価値の創造
- ・変化ある未来に立ち向かう企業風土の構築
- ・イノベーションを実現する人材の育成と組織能力の強化

行動指針



変革と成長

Change for Growth

マネジメントメッセージ

～ 持続的な企業価値向上と
エクセレント・カンパニー
への飛躍を目指して～

変革と成長



当社を取り巻く事業環境は想定以上の速さで変化しています。AIやIoTなどの新技術を活用したDX(デジタルトランスフォーメーション)による新たなビジネスモデルの登場に加え、持続可能な社会の実現に向け、企業経営にはESGやSDGsの視点も求められています。

そして、その変化は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって社会生活が一変したことで、一気に加速しました。これからの企業には、激変する事業環境に対応すべく、さらなる新しい価値の創造と企業体質の強化が求められています。

こうした背景のもと、当社は思考形態や行動様式を抜本的に見直し、脱皮を図り、新たな挑戦に向かうために、「変革と成長」を基本戦略とした新中期経営計画「VISION2023」を策定しました。この新たな中期経営計画に基づき、既存事業の収益基盤を強化していく「変革」と、新規商材・新規事業の創造により成長事業を拡大していく「成長」を両輪として、当社はコロナ禍の閉塞感を打破し、新たな成長に向けて邁進していきます。

この「VISION2023」を策定するにあたって経営方針を刷新しました。以下3つの新経営方針を掲げて、「VISION2023」の達成に向けて取り組んでいきます。

経営方針

■ものづくりを通じた新たな価値の創造

事業の根幹は「ものづくり」です。「ものづくり」とは、技術だけでなく、企画、開発設計、デザイン、ブランド、製造、品質、コスト、UX(User Experience(ユーザーエクスペリエンス))にわたるすべての要素を意味しています。新技術や事業環境の変化などによりビジネスモデルがどんなに変化しても、コアになる部分は大事にしていく、つまり当社は“ものづくり企業”として、この精神を守っていきたいと考えています。

■変化ある未来に立ち向かう企業風土の構築

ここ近年、そしてコロナ禍に見舞われたこの1年を振り返っても、世の中の動きは想像以上に速く、別次元のように変化しました。これからの企業には、こうした目の前で起こる変化に迅速かつフレキシブルに対応しながら成長していくという「柔軟性」と「しなやかさ」が求められます。この変化への対応力こそ企業成長の源泉であると考え、たくましく、前向きに変化に立ち向かっていきたいと考えています。

■イノベーションを実現する人材の育成と組織能力の強化

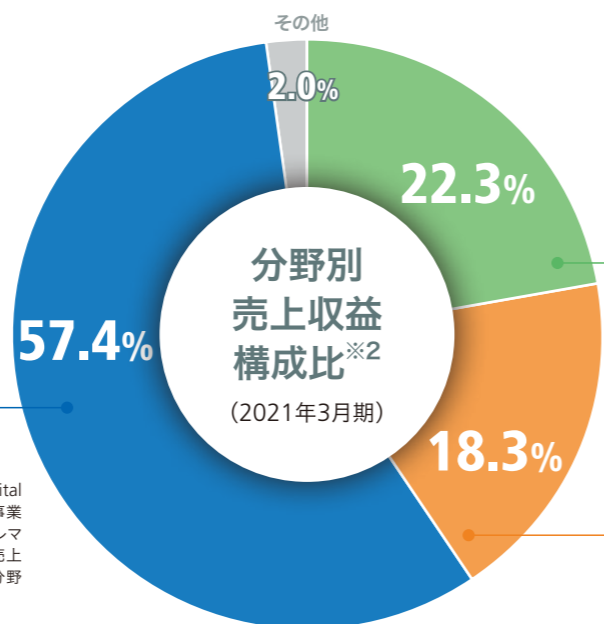
当社のような“ものづくり企業”の「変革と成長」には挑戦的で、かつ独創性のある人材が必要です。また、イノベーションとは複数の「要素技術」の結合によって生まれるものです。「要素技術」とは、コアテクノロジーという技術に限らず、知識や経験、多様性、アート、スキル、ビジネスモデルも含まれます。そのため、個々の従業員が良い技術やアイデア、発想を持っていても組織的な結合がなければ、ものづくり企業におけるイノベーションは起きにくいでしょう。社会に向けて、より新しい価値をもたらすために、イノベーションが生まれやすい人材育成や組織設計、マネジメントを行っていきます。

この新たな中期経営計画「VISION2023」と経営方針の推進のもと、持続的な企業価値向上と、「たくましさ」と「したたかさ」を併せ持つエクセレント・カンパニーへの飛躍を図り、企業ビジョンである「感動と安心を世界の人々へ」の実現を目指していきます。

代表取締役 社長執行役員
最高経営責任者 (CEO)

江口 祥一郎

当社は、「モビリティ&テレマティクスサービス^{※1}」「パブリックサービス」「メディアサービス」という3つの事業分野において、企業ビジョンである「感動と安心を世界の人々へ」を実現する製品・サービス、ソリューションの提供を目指しています。



※1 2021年7月1日付で「その他」に含まれていた「DX(Digital Transformation)ビジネス事業部」のテレマティクス事業を「オートモーティブ分野」へ編入し、「モビリティ&テレマティクスサービス分野」に名称変更しました。分野別売上収益構成比は、2021年3月期実績について変更後の分野区分で算出しています。

※2 小数第2位を四捨五入して算出

モビリティ&テレマティクスサービス分野

モビリティ&テレマティクスサービス分野は、カーナビゲーションやドライブレコーダーなどを自動車メーカー/ディーラーを通じてお客さまに提供する「OEM事業」と、それらを量販店や代理店を通じてお客さまに提供する「アフターマーケット事業」を展開しています。また、業界でトップクラスの実績を誇るドライブレコーダーに通信機能を搭載することで自動車保険向けなどの「テレマティクスサービス事業」を展開。さらには「IoTプラットフォーム事業」としてデータサービスビジネスへと事業領域の拡張を図ることで、より安心・安全なモビリティライフに寄与するソリューションサービスの提供を目指します。

主要製品



カーナビゲーション



ドライブレコーダー



テレマティクスサービス



ディスプレイオーディオ



カーオーディオ



車載用アンプ/アンテナ/スピーカー

パブリックサービス分野

パブリックサービス分野は、「無線システム事業」「業務用システム事業」を展開しており、業務用無線システムやブロードバンド無線ソリューション、セキュリティシステム、業務用放送システム、医用画像表示モニターなどを通じて、人々の命と暮らし、安心・安全な街づくりに寄与する製品・サービス、ソリューションを提供しています。

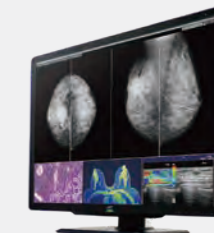
主要製品



業務用無線システム



セキュリティシステム



医用画像表示モニター

メディアサービス分野

メディアサービス分野は、在宅時間の増加による楽しみ需要や、自然災害やパンデミックに対する意識の高まりに対応した製品を幅広く展開するとともに、5Gから6G時代を見据えた次世代光通信関連事業の拡大を目指しています。また、数多くの人気アーティストを抱える「エンタテインメント事業」では、パッケージ&配信音源ビジネスのシェア拡大と非音源ビジネスの強化を図っています。

主要製品



ヘッドホン/イヤホン



ポータブル電源



音楽・映像コンテンツ

お客さまから親しまれている3つのブランドを展開

コーポレートの傘下に複数のプロダクトブランドを有する「マルチブランド戦略」を推進します。お客さまから長く親しまれている3つのプロダクトブランド「KENWOOD」「JVC」「Victor」は、AIやIoTが最先端技術となった今日においても、時代の変化に柔軟に対応しながら、お客さまの期待に応え、またその期待を超えるような製品やサービスを展開します。ものづくりを通じて3ブランドはさらに進化を続けます。

KENWOOD

先進性・鋭さ・高品質の想いをブランドロゴの赤トライアングルに込め、音と通信の技術を軸とした製品を展開する「KENWOOD」ブランド。技術の限界に挑戦するため、過酷な速度・温度・振動・騒音環境のモータースポーツの世界で無線システムや車載カメラの提供も行っています。そして今、当社の新時代を担う「モビリティ&テレマティクスサービス分野」におけるさらなる発展を目指し、ドライブをより安全に、より快適にするためのドライブレコーダー(据付型・通信型)や各種車載用製品・サービスを拡大中です。



JVC

映像/音響製品からヘルスケアシステムまで、幅広い領域でグローバルに展開する「JVC」ブランド。BtoB領域での存在感に加え、BtoC領域では人々の「ライフスタイル」に注目し、幅広いラインアップを取りそろえる各種ヘッドホンや、昨今ニーズが拡大しつつあるポータブル電源など、常に人々の生活に寄り添った製品やサービスを提案します。



Victor

“His Master’s Voice”で知られる犬の「ニッパー」と共に親しまれている「Victor」ブランド。「原音探究」の思想を受け継ぎ、ヘッドホンでリスニングルームのスピーカー音場を再現する独自の頭外定位音場処理技術「EXOFIELD(エクソフィールド)」や、スピーカーの振動板に木を採用したオーディオシステム「WOOD CONE(ウッドコーン)」などを展開。これからも既存概念にとらわれず、時代にふさわしい技術や商品を目指します。



JVCケンウッドグループのサステナビリティ

基本的な考え方

当社は、事業活動を通じてさまざまな社会課題を解決する製品・サービス、ソリューションを提供することで、企業と社会におけるサステナビリティを推進しています。さらに、「VISION2023」では「利益ある成長」と「グローバルでの社会的課題解決」を両輪とするサステナビリティ経営への取り組みを重点テーマとして深化させていきます。お客さまを含めたすべてのステークホルダーと深い信頼関係を築きながら、持続的な企業価値の向上とSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)への貢献を図ります。

SDGsとの関わりとマテリアリティ(重要課題)

SDGsの全17ゴールのうち当社の事業と強い関連性があり、解決に貢献できると思われる8つのゴールを当社が最優先で取り組むべき重要課題として選定し、定性・定量的な目標を設定しています。また、各ゴールの社会課題テーマ(社会、労働、環境、品質、経済、安全、ガバナンス、価値創造)を明確にすることで、課題解決に向けた製品・サービス、ソリューションの提供価値を創造し、企業ビジョンを実現するとともに企業の持続的な成長を目指します。



最優先で取り組むべき重要課題

- | | |
|---|---|
| <p>I[社会]
交通事故の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ●モビリティ&テレマティクスサービス製品・サービスによる価値創造 <p>II[労働]
ダイバーシティ&インクルージョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●女性活躍推進 ●風土・働き方改革 <p>III[環境]
気候変動への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●温室効果ガス排出削減(Scope 1,2,3) ●環境マネジメントシステムの構築 <p>IV[品質]
持続可能なものづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プラスチック使用量の把握・削減 ●生産工程における省資源・省エネルギー | <p>V[経済]
イノベーションの加速</p> <ul style="list-style-type: none"> ●製品・サービスによるイノベーションの創出 <p>VI[安全]
安心・安全な街づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●セキュリティ製品・サービスによる価値創造 ●IoTソリューション製品・サービスによる価値創造 <p>VII[ガバナンス]
リスクマネジメントの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーポレート・ガバナンス ●コンプライアンス行動基準 ●製品の品質・安全性 <p>VIII[価値創造]
ステークホルダーパートナーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ステークホルダーとの協働(行政/ビジネスパートナー/地域社会) |
|---|---|



安心・安全な交通社会に貢献するカーナビゲーションやドライブレコーダー、テレマティクスサービス



安心・安全な街づくりを支えるブロードバンド無線システム



防災・減災を支援するポータブル電源やソーラーパネル

当社のサステナビリティ活動については、当社公式ウェブサイトにてより詳細な取り組みを報告しています。併せてご覧ください。

●「サステナビリティ」当社公式ウェブサイト
<https://www.jvckenwood.com/jp/sustainability.html>



「サステナビリティ」当社公式ウェブサイト

事業所／研究開発拠点

拠点名	所在地	主要研究開発品目
本社・横浜事業所	神奈川県横浜市	モビリティ&テレマティクス関連機器、プロジェクター、ビデオカメラ、オーディオ関連機器、医療関連機器等
八王子事業所	東京都八王子市	モビリティ&テレマティクス関連機器
白山事業所	神奈川県横浜市	無線機器、映像監視機器等
久里浜事業所	神奈川県横須賀市	D-ILAデバイス、レーザーダイオード等

主要生産拠点および生産会社

拠点名および会社名	所在地	主要生産品目
本社・横浜事業所	神奈川県横浜市	光学部品
久里浜事業所	神奈川県横須賀市	光学部品、プロジェクター
横須賀事業所	神奈川県横須賀市	CD、DVD (パッケージソフト)
(株) JVCケンウッド山形	山形県鶴岡市	通信関連機器、業務用機器
(株) JVCケンウッド長野	長野県伊那市	モビリティ&テレマティクス関連機器
(株) JVCケンウッド長岡	新潟県長岡市	医療機器、医用画像表示モニター、車載基板

その他の主要関係会社

会社名	所在地	事業内容
(株) JVCケンウッド・クリエイティブメディア	神奈川県横須賀市	記録済み光ディスクの開発・製造・販売および医療用機械器具の製造・販売
(株) JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント	東京都渋谷区	音楽・映像ソフトの企画・制作・販売、ライブ事業、ゲーム事業、スタジオ事業等
(株) JVCケンウッド・ビデオテック	東京都渋谷区	映像・音響の制作・編集・ローカライズ・販売、スタジオ運営、イベント制作・運営
(株) JVCケンウッド・公共産業システム	神奈川県横浜市	映像・音響・通信関連機器およびシステムソリューションの開発・製造・販売・施工・保守
(株) JVCケンウッド・サービス	神奈川県横須賀市	音響・映像機器等のアフターサービス
(株) JVCケンウッド・パートナーズ	神奈川県横浜市	福利厚生・総務・人事・経理業務等の受託、物品販売、旅行業、建築工事の施工および請負
(株) JVCケンウッド・エンジニアリング	神奈川県横浜市	ソフトウェアおよびハードウェアの開発設計
(株) JVCケンウッド・デザイン	東京都世田谷区	デザインの企画・制作



本社・横浜事業所



八王子事業所



白山事業所



久里浜事業所



JVCケンウッド山形



JVCケンウッド長野



JVCケンウッド長岡

生産会社

会社名	所在地	主要生産品目
JVCKENWOOD Electronics Malaysia Sdn. Bhd.	Malaysia	通信関連機器
JVCKENWOOD Electronics (Thailand) Co., Ltd.	Thailand	メディア関連機器、業務用機器
JVCKENWOOD Optical Electronics (Thailand) Co., Ltd.	Thailand	モビリティ&テレマティクス関連機器
PT. JVC Electronics Indonesia	Indonesia	モビリティ&テレマティクス関連機器
Shanghai Kenwood Electronics Co., Ltd.	China	モビリティ&テレマティクス関連機器
Beijing JVCKENWOOD AV Equipment Co., Ltd.	China	業務用無線システム

販売会社：米州地域

会社名	所在地
JVCKENWOOD USA Corporation	U.S.A.
JVCKENWOOD Canada Inc.	Canada
JVCKENWOOD Latin America, S.A.	Panama

販売会社：EMEA地域

会社名	所在地
JVCKENWOOD U.K. Limited	U.K.
JVCKENWOOD Deutschland GmbH	Germany
JVCKENWOOD Europe B.V.	Netherlands
JVCKENWOOD Italia S.p.A.	Italy
JVCKENWOOD RUS Limited Liability Company	Russia
JVCKENWOOD Gulf Fze	U.A.E.

販売会社：アジア・オセアニア地域

会社名	所在地
JVCKENWOOD Singapore Pte. Ltd.	Singapore
JVCKENWOOD Malaysia Sdn. Bhd.	Malaysia
JVCKENWOOD (Thailand) Co., Ltd.	Thailand
PT. JVCKENWOOD Indonesia	Indonesia
JVCKENWOOD Australia Pty. Ltd.	Australia

販売会社：中国地域

会社名	所在地
JVCKENWOOD (China) Investment Co., Ltd.	China
JVCKENWOOD Hong Kong Ltd.	China
JVCKENWOOD Trading (Shanghai) Co., Ltd.	China

その他の主要関係会社

会社名	所在地	事業内容
EF Johnson Technologies, Inc.	U.S.A.	業務用無線システムの開発・製造・販売
ASK Industries S.p.A.	Italy	モビリティ&テレマティクス関連機器の開発・製造・販売
Radio Activity S.r.l.	Italy	業務用無線システムの開発・販売
Rein Medical GmbH	Germany	手術室映像ソリューションの開発・販売・施工
JVCKENWOOD Hong Kong Holdings Limited	China	モビリティ&テレマティクス関連機器の製造販売および電子機器受託生産サービス
JVCKENWOOD Technologies Singapore Pte. Ltd.	Singapore	モビリティ&テレマティクス関連機器・通信関連機器の設計・評価



JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント (ビクタースタジオ)



JVCKENWOOD Electronics Malaysia Sdn. Bhd.



JVCKENWOOD Optical Electronics (Thailand) Co., Ltd.



PT. JVC Electronics Indonesia



JVCケンウッド・デザイン



Shanghai Kenwood Electronics Co., Ltd.



EF Johnson Technologies, Inc.



ASK Industries S.p.A.

次世代の「ヒトづくり」のために

当社グループは、人材を企業競争力の源泉となる「かけがえない経営資源」として認識し、高感度で自立性と実行力にあふれ、誠実な行動に徹することのできる人材を育成します。すべての人材のスキル・能力・意欲・健康が新鮮で高いレベルに保たれるよう取り組み、企業ビジョンの実現と持続的発展を図ります。

また、多様な発想や価値観を持った人々が互いを尊重し、刺激し合うことで、革新的なアイデアが生まれ、世界中のお客さまの多様なニーズに応えることができると考えて、社内への啓発活動や、多様な人材の採用・育成・登用を実施しています。

従業員の健康管理

「JVCケンウッド健康宣言」に基づき、あらゆる階層が一丸となり、健康経営と従業員の健康管理や職場環境向上への取り組みを行っています。この結果、4年連続で「健康経営優良法人」に認定されています。引き続き、さらなる健康経営の実現に向けた各種施策を展開していきます。

ダイバーシティ&インクルージョン推進の取り組み

ダイバーシティマインドの醸成や理解促進のため、さまざまな取り組みを推進しています。

- ・2018年に女性活躍推進法に基づく「えるぼし」の最高位を取得
- ・全社イベント「SDGsフォーラム2020」を開催し、ジェンダー平等などをテーマにオンラインセミナーを実施
- ・育児・介護と仕事の両立支援研修の実施や「育児・介護 両立支援ハンドブック」を作成するとともに、男性従業員の育休取得体験記を当社公式ウェブサイトや社内イントラネットに掲載
- ・性的マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE指標」の最高位「ゴールド」を3年連続で受賞
- ・障がいのある従業員と共に働く上で必要な知識や考え方について、継続的に社内研修を実施



「PRIDE指標」ゴールド受賞ロゴ

役員紹介

取締役

岩田 真二郎	社外取締役 取締役会議長
江口 祥一郎	代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者 (CEO)
野村 昌雄	代表取締役 専務執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野責任者、IT部担当、事業改革担当
宮本 昌俊	代表取締役 専務執行役員 最高財務責任者 (CFO)
鈴木 昭	取締役 専務執行役員 パブリックサービス分野責任者、経営基盤改革室長
栗原 直一	取締役 常務執行役員 コーポレート部門担当 (人事部、総務部、秘書室、サステナビリティ推進室担当)、EMEA総支配人
園田 剛男	取締役 常務執行役員 最高技術責任者 (CTO)、未来創造研究所担当、ものづくり革新部担当、知的財産部担当、法務部担当、調達・物流管理部担当
浜崎 祐司	社外取締役 指名・報酬諮問委員会 委員長
鬼塚 ひろみ	社外取締役

監査役

今井 正樹	常勤監査役
齊藤 勝美	社外監査役
栗原 克己	社外監査役
藤岡 哲哉	社外監査役

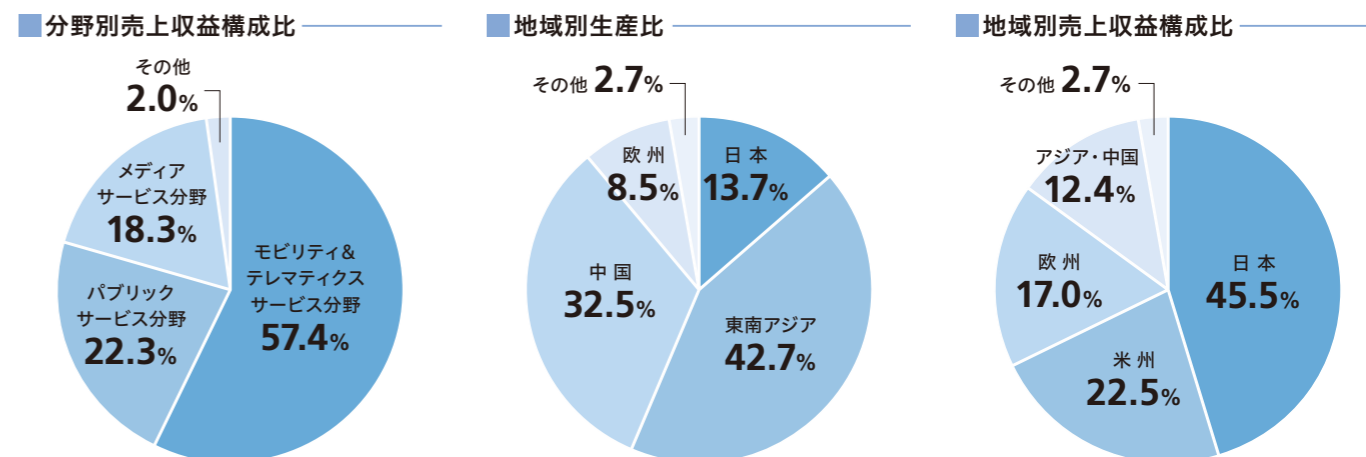
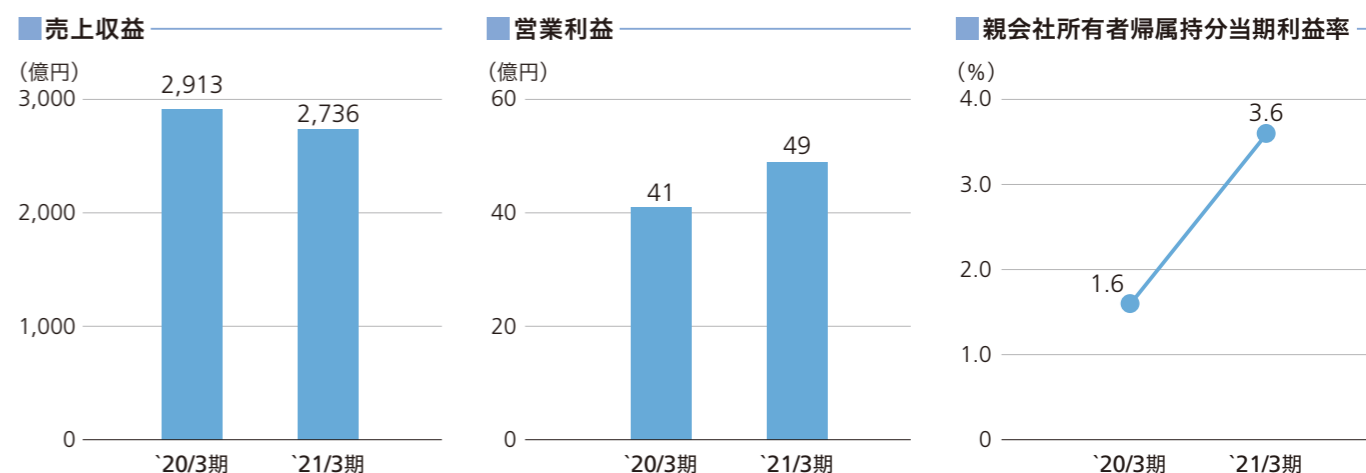
執行役員

高田 伸一	常務執行役員 コーポレート部門担当補佐 (企業コミュニケーション部担当)、経営企画部長
寺田 明彦	執行役員 中国総代表
林 和喜	執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野責任者補佐、DXビジネス開発部担当
村岡 治	執行役員 米州総支配人、APAC総支配人、海外事業強化担当
関谷 直樹	執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野 アフターマーケット事業部長、国内マーケティング本部長
岩崎 初彦	執行役員 メディアサービス分野責任者、同分野 メディア事業部長
佐藤 勝也	執行役員 パブリックサービス分野 無線システム事業部長

会社概要

商号	株式会社JVCケンウッド (英文名: JVCKENWOOD Corporation)
事業内容	モビリティ&テレマティクスサービス分野、パブリックサービス分野、メディアサービス分野の事業等を営むこと、ならびにこれに相当する事業を営む会社の株式または持分を保有することによる当該会社の事業活動の管理
代表者	代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者 (CEO) 江口 祥一郎
設立	2008年10月1日
資本金	13,645,825,000円 (2021年3月31日現在)
従業員数 (連結)	16,956名 (2021年3月31日現在)
資産合計 (連結)	264,326百万円 (2021年3月31日現在)
資本合計 (連結)	68,523百万円 (2021年3月31日現在)
決算日	3月31日
本社所在地	〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地 電話番号: 045-444-5500 (代表)

2021年3月期 業績ハイライト ※国際財務報告基準 (IFRS) ベース



※小数第2位を四捨五入して算出
 ※2021年7月1日付で「その他」に含まれていた「DX (Digital Transformation) ビジネス事業部」のテレマティクス事業を「オートモーティブ分野」へ編入し、「モビリティ&テレマティクスサービス分野」に名称変更しました。分野別売上収益構成比は、2021年3月期実績について変更後の分野区分で算出しています。

JVCKENWOOD

株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地
<https://www.jvckenwood.com/jp.html>



©2021 JVCKENWOOD Corporation
JK0043